

高二尺許端嚴妙麗尋構精藍於河南以妥之故俗呼曰橋柱寺云々

〔靈元院法皇御幸宸記〕享保八年卯月のはじめの六日、修學院の山莊に行略中還向するほど、いづみ河のはしをすぐとて、

打渡す橋よりみれば河上も末もはるく水きよくして、略中秋になれば亦山莊に行べきと、長月のはじめのなぬかと定仰せし、略中歸るさに和泉川のはしに輿かき居させ、河水のいさぎ能きをまばしみる、それより野をはるく行て壽月觀にいたりぬ、

澤田川橋

〔催馬樂〕律 澤田川 三段

さはだ河、袖つくばかり、あさけれど、はれ、

二段

あさけれどくにの宮人、高はしわたす、

三段

あはれ、そこよしや、高はしわたす、

〔山城名勝志 相樂郡〕澤田河 泉河同、事歟

梁塵愚案抄云、澤田川くのに宮古は、皆山城國三日の原に有所の名也、

〔金葉和歌集 夏〕權中納言俊忠卿の家の歌合に、さみだれの心をよめる、藤原顯仲朝臣

さみだれに水まさるらしさはだ川、まきのつぎ橋、浮ぬばかりに

〔夫木和歌抄 二十一〕喜多院入道二品親王家五十首 三條入道左大臣

五月雨に水こえにけりさはだがはく、にみや人のわたすたかはし

淀橋

〔夫木和歌抄 二十一〕よどのつぎはし 山城、或近江、

〔和漢名數 地理〕山城國大橋五 略 中 淀大橋

〔京羽二重 四〕三大橋 淀大橋 山城木津川ノ流ニ渡ス

〔山州名跡志 久世郡〕大橋 在孫橋南 此所淀郷南界也 橋 丑寅ヨリ申酉ニ渡ル、長百三十七